

男子団体3年連続の快挙!

経スボ



新入単個第3位の実績が評価され、今回先鋒を務めた坪井（経営7年）が幸先よく一本勝ちを收めるも、次鋒・小川（人間1年）が二本負け、五将・栗波（人間1年）が一本勝ち、中堅・宮崎（経済3年）が一本負けと一進一退の攻防が続くことで三将・寺内（人間1年）があつという間に一本勝ち。昨年は国体選手として活躍した黄瀬ルーキーが、冷静な佇まといとは裏腹に、熱い剣風で流れを引き戻す。その後、1年次から不動のレギュラーとして活躍して

い。 また畠山・川口（人間2年）が弓引き分け、最後は久野監督が絶対的な信頼を寄せる大将・片岡（人間4年）が堂々の二本勝ちを収め初戦をものにした。

続く二回戦、相手は大阪電通大オーダーを次鋒・栗山（経済1年）中堅・岡（経営4年）に変更し、出場選手全員が計四本を奪い、完勝。格の違いを見せつけた。

一方、女子団体は先鋒・仙石（経済1年）が上段から一本を奪うも、格上の大産大を相手に初戦敗退となつた。春には西日本ベスコト16という結果を残した女子団体であるが、経験の差が浮き彫りとなつた。今後は鍛錬を重ね、来年こそ悲願の全日本出場を果たした

相手に強豪・日南高等学校復讐戦は、今大会で量勝の試合となつた。生が引き分け、次鋒・栗山、名門・育英高校出身の小柄なルーキーが、縦横無尽に駆け回り、引き際に倒れながらも正面をたき込み、一本勝ちを収める。続く五将・栗波は一般入試での入学ながら、大阪の強豪・夙愛高校で大将を務めた実力と勝負意欲を認められ、入学者たるにギョーラーを勝ち取った選手である。その栗波は強烈な腕を相手に叩き込み、一本勝ち。

A kendo fighter in black armor and a helmet stands in a ready stance on a wooden floor, holding a long wooden bokken. Another person's arm is visible on the left, also holding a bokken. The background shows a gymnasium setting.

で出場していることもあります。自分たちの代
で全日本出場をとどめではない、という
プレッシャーもありましたが、三年連続で
出場を決めることができ、本当に良かった
と思っております。これは自分たちの力だけ
ではなく、応援に来ていただいた保護者の方
や学校関係者の方、今まで稽古をつけ
ていただき先輩方など、皆様のおかげで
あり、感謝の気持ちでいっぱいです。
また、ここで満足するのではなく、全日本
学生剣道優勝大会に向けて新たな目標を
掲げ、久野監督の指導のもと、稽古に励み
たいと思っております。

全日本では、一つでも勝てるように頑張っ
ていきたいと思っておりますので、
今後とも応援とサポートのほど、よろし
くお願いいたします。

戦の相手は女子団體と同様に大陣だ。昨年度ベスト8の強豪校であり、女子団體の仇を取らねばならない。結果は先鋒・坪井中堅・岡が一本を奪われたのち、将・岡が3度二本勝ちを收めるも敗退。敗者復讐戦に挑むこととなつた。そして敗者復活豪・甲南大。この敗戦で最も記憶に残る今大会で、男子団體、三回中堅・岡は一本を奪われるも、初戦外された不甲斐なき、そしてキャプテンの意地を發揮するかのごとく、果敢に攻めて一本を取り返した。選手全員が一丸となった結果、見事甲南大を下し、3年連続となる全国大会出場権を勝ち取った。10月9日(日)に行われる『全日本学生剣道選手権大会』では、東海大学と優勝大會で対戦する。過去2年間、国際武道大学、早稲田大学と関東の強豪校の前に初戦敗退と厳しい結果となつてゐる。今年こそは初戦突破をを目指し、勢いそのままに、全日本の舞台でも大暴れしてくれる」と期待している。

今回関西学生剣道優勝大会において3年連続して全日本の出場権を獲得させて頂きました。「2年連続出場を今年で絶対に達成しました。」
「切れさせ」とは出来ない」そのフレッシャーに耐えて乗り越えてくれた学生達の「頑張り」が監督として大変嬉しく思うのと同時にこれは徳永学長はじめ生部の皆様の姿わらぬ「支援のお蔭」であり、そして私達といつも一緒に戦って頂けている顧問の草薙先生、山田副部長との信頼「絆力」の成果であると心より感謝致しております。来るる全日本では力の限りを出し尽くして戦う覚悟で臨みます。今後共皆様のご支援、ご指導を賜ります様宜しくお願ひ致します。

剣道部“3年連続”全日本出場!

発刊：大阪経済大学
スポーツ・文化振興課

卷四

VOCES

三連続の全国大会出場、剣道部として久々の快挙であり、胸を張って報告させていただきます。それにしても、ベスト8進出をかけて敗れた試合でも、敗者復活戦で勝ち残った試合でも、紙一重の差の重みを思い知らされました。強豪が集った全国大会ではなおのこと、紙一重の差を制するのには、もはや技よりも気力、気力みなぎる戦いを繰り広げて、皆様の熱い声援にこたえてくれることでしょ。

哲史（剣道部 主将）
でも勝てるよう頑張つ
ます。ボートのほどよし
ます。指導のもと稽古に励み